

関西北陸ブロック ブロック学生委員会 #3

概要

日程：2026年8月2日(日) 13:00～17:00
場所：オンライン(Zoom)

参加者

富山大(3)、富県大(2)、龍谷大(3)、京成大(1)、京工繊(1)、京都橘(1)、
滋賀大(1)、滋県大(1)、奈良女(3)、奈良教(3)、奈良大(1)、大教大(3)、
近畿大(3)、大阪大(1)、松蔭女(1)、和歌山(1)、関学大(3)、兵県大(1)、
ブロック(18)

計18会員51名



講座のネタは身近にある

- まなせいは特別な活動ではない
- 自分の経験が企画になる
- 講座も学習会も交流企画もまなせい
- 「誰かの困った」を支える活動を増やしていく！

大学ごとの特色を感じながらも、悩みの種となる部分については同じであると感じられた。
(大阪大・2年)

01 アイスブレイク

講座のネタは身近にある

分野の一つである「学びと成長」について考える第一歩として、アイスブレイクの時間に「新入生お助け講座グランプリ」を実施しました。自分たちが新入生だったころの困りごとを振り返り、参加したくなるような講座を考えました。「履修の issue 相談講座！」など、ユニークな講座案が出ていました。

02 方針・総括の時間

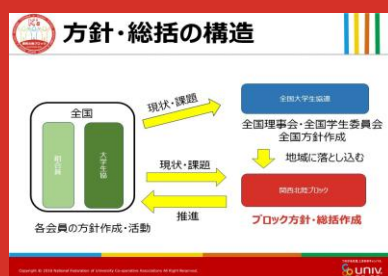
上半期を振り返り、下半期への一步を考える

この時間では、まず上半期の活動を振り返りながら、自大学で取り組んできたことや成果、課題について共有しました。その後、他大学の学生委員と交流しながら、それぞれの活動の工夫や悩みについて話し合いました。

交流の中では、ブロック方針をもとに上半期の活動を振り返り、「できたこと」「できなかったこと」を共有しました。自大学では当たり前だと思っていた取り組みが他大学では新しい発見となったり、反対に他大学の実践から自大学で活かせるヒントを得たりするなど、多くの学びを得ることができました。また、活動を振り返ることで、自大学の現状や課題を改めて整理する機会にもなりました。

後半では、上半期総括(ビジュアル版)を活用しながら下半期の活動計画について考えました。上半期総括にまとめられている各会員生協の取り組みや課題を参考にすることで、自大学で今後重点的に取り組みたいことや、新たに挑戦してみたい活動について具体的に考えることができました。

上半期を振り返るだけでなく、下半期の活動につなげるきっかけとなる有意義な時間となりました



後期からの活動の方針が自分の中で定まり始めた。
(富県大・2年)

ビジュアル版とは

総括本編よりたくさんの企画を紹介！
下半期の活動に役立つヒントが見つかるよ

もくじ

1. 方針・上半期総括とは
2. 活用方法
3. 初年度大生協総括(仮定案)

企画案に注目！

- ▶ 組織運営・組合員交流 (Can/Ch)
- ▶ 健康・安全 (たんあん)
- ▶ 学びと成長 (まなせい)
- ▶ 社会的課題 (しゃか)

自大学では、もっと組合員の「生の声」を取り入れていきたいと思いました。
(近畿大・2年)

03 新スタ振り返りと27新学期 に向けての時間

「モノの提案」から、大学生活を支える新学期へ

この時間では、新学期スタートダッシュセミナー2027で扱った”新学期活動の起点と目的”や”新学期MVV”を振り返りながら、2027年の新学期活動について考えました。グループ交流では、大学や学部によって学生生活が異なることを意識して、それぞれの大学に必要な新学期活動について考えました。新入生の”今”だけでなく”これから”の大学生活まで支える活動に繋げていくきっかけとなる時間になりました。



新入生向けの企画について、新入生の気持ちに寄り添えていたかどうかを改めて考えて、意識すべきポイントを考えることができました。
(大教大・2年)

04 学生委員会運営の時間

お悩み交流会

この時間では、今学生委員会として頑張っていることから、普段の活動の中で感じている悩みまで共有した後、【学生委員のモチベーション維持】【職員との連携】【部会運営】【活動内容の充実】【後輩との関わり】のテーマ別に分かれて、お悩み別交流会を行いました。

それぞれのテーマについて、自分が抱えている悩みや感じていること、工夫していることなどを話し合いながら、他の学生委員の意見や経験を聞くことで、さまざまな視点から考えることができました。普段の活動ではなかなか話すことのできない悩みや想いについても、参加者同士でたくさん話すことができ、互いの経験を共有しながら交流を深めることができました。

また、学年や大学が違うからこそ、自分にはなかった考え方や活動の工夫に触れることができ、「自分たちの学生委員会でもやってみよう！」と思えるような新しい気づきや発見もたくさんありました。自分と似た悩みを抱えている人の話を聞いて共感したり、反対に自分とは違う視点からの意見を聞いて新たな考え方を知ったりするなど、それぞれにとって実りのある時間となりました。

下半期を迎えようとする中で、幹部が学生委員会の具体的な運営方法を考え、それを講じていくことが重要だと感じた。自大学での課題に対し、事前に一部の幹部や担当の生協職員と話し合った上で、ブロック学生委員会に参加できたことは良い判断だったのではないかなと思う。これから活動が活発化していく中で、正副学生委員長・その他幹部・企画のリーダー陣・生協職員など、多方面にわたって連携を取って情報を収集・伝達し、適切に他者と関わっていくことが求められると考えた。(関学大・2年)



次回のブロック学生委員会は—

2026年10月24日(土)

ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました！
次回もよろしくお願いします！



ご質問や[K's NEWS]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！
ブロック学生事務局 [市堰 遼河]
Ichiseki.Haruka@univ.coop

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。